

すべての道はローマに通ず
好きなことを好きなだけ

私は前期ではテニス部および SSH 物理班に所属し、後期になってからはテニス部を退部し、本格的に SSH での研究活動を行うことになりました。この六年間、私はひたすら好きなことを突き詰めてきました。ぶっちゃけていえば、ゲームです。そのため、前期課程では友達とゲームを作って大会に出たり、カメラで自分の体を認識させてゲームの世界に入りこめるシステムを作ろうとしたりしていました。

そして後期課程では、画面越しで触れないのが嫌で、何も物はないのに空気中で何かに触った感触がするという、触覚のホログラムのようなものを作りました。

どなたの言葉か存じませんが「好きこそものの上手なれ」という言葉があります。好きなものがアニメだろうが音楽だろうがゲームだろうがその「好き」の根拠があると思います。そうした漠然とした「好き」を見つめていくことで自分は何をしたいのか、何が目標・夢なのかが見えてくると思います。六年間はあっという間なので思いっきり楽しんでしまいましょう。あとは、

学校外にも人脈を広げるということをお勧めします。インターネットが普及して様々な情報を瞬時に入手できるようになりましたが、有用な情報は意外と人づてに伝わってくるものですし、何か問題があって相談すると直接手助けしてくれるかもしれません。私の場合は、開発した装置の性能評価をするのに十分な設備が学校になかったため、大学教授にお願いしたところ、大学の機材の貸出だけでなく、実験の補助までしてくださいました。そんな一期一会を増やしていくには機会を増やしていくのが一番です。最近では様々な催しがオンライン

開催となり、物理的距離が遠く、参加の難しかったものにも容易に参加することができます。是非、様々なことに挑戦してみてください。そして、若さを理由にいろいろな人に頼っていきましょう。

受験に関しては、人それぞれあると思いますが、私はとにかく楽しんだもん勝ちだと思っています。もし、自身の好きなことを極めて大学進学まで果たしてしまおうという場合はできるだけ早く自身の方向性を見定めるべきです。「好き」を極めるには自身の心もちも大切ですが、親の理解が得られなければなかなか難しいものがあります。

私の場合は後期課程に入った途端、研究に没頭するようになり、親は早々に「一般はないな」と思っていたようです。そのため、私は学校でも家でもひたすらに研究活動を続けることができました。ここで勘違いしてほしくないのが、大学に入学するために好きなことを極めるというわけではないということです。これをやってしまうと、途中で自身は結局何が好きで、何をしたかったのかを見失ってしまいます。もちろん、目標や夢に向かっている最中に方向性が変わることはよくありますし、むしろ、それは良いことだと思います。しかし、「大学入

学」が目標となってしまうと、それ以上の自分の方向性が見えなくなり、見失ってしまいます。あくまで大学への入学というのは自身の好きを極めるという目標を遂行する上での一つの手段であるわけです。ぜひこの機会に皆さん自身の「好き」とは何か、見つめなおしてみませんか？

と、ここまでえらく大仰な態度で様々なことを述べてきましたが、これはあくまでも高校を卒業する十代の若者の一つの意見でしかありません。ですので、こんなやつがいるんだなと参考程度に思っただけならば幸いです。ご精読ありが

とうございました。